

— EBPMを「使える形」にする現場のヒント —



なぜEBPMは 現場で使われないのか

データで政策は変わるのか。

研修で終わらせない。EBPMを“現場で回す”実践セミナー

2026.08.24 月 13:30 -16:30

デジタル庁で政策データの可視化とEBPM推進を担う榎田光氏が、データ活用の最前線から、行政の現場で直面する課題に鋭く切り込み、トークセッションでは、自治体職員と研究者の視点から、組織連携や人材育成、データ基盤などのリアルな課題と突破口を議論します。

EBPM：エビデンスに基づいて政策を考える取組

プログラム

【第1部】基調講演（45分）デジタル庁 榎田光氏
データに基づく政策立案の最前線と目指すべき姿

【第2部】トークセッション（60分）
現場のリアルな課題と突破口
登壇者：榎田／杉谷／和川／吉田／藤澤

【第3部】意見交換・質疑（40分）
～明日から使えるヒントを持ち帰る～

基調講演講師

榎田 光 氏

デジタル庁
Chief Analytics Officer



データ政策の中核人材、元メルカリ Head of Data Analytics（分析責任者）。民間からデジタル庁へ転身し、データを通じた行政の高度化に取り組む。デジタル庁では、政策データの可視化やEBPMの推進を担い、政策の質向上とデータ活用の浸透をリード。民間と行政双方の経験を活かし、実務に根ざしたデータ活用を提言している。

自治体パネリスト

吉田 沙織 氏 岩手県総務部財政課

藤澤 弘江 氏 奥州市総務部行革デジタル戦略課

会場 キオクシアアイーナ 会議室803
（いわて県民情報交流センター）

対象者 EBPMやデータ活用に関心のある方など誰でも
※自治体職員の方、一般の方のご参加も歓迎
※専門知識がなくてもご参加いただけます

定員 80名 参加無料／事前申込制

申込方法 右の二次元コードもしくは
下のWebフォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/v1JgPdADMxY9srKP6>



モデレーター

公共政策学が専門。EBPMや政策評価の研究に従事。著書に『政策にエビデンスは必要なのか』などがあり、政策形成の理論と実践の両面から発信。

岩手県立大学 総合政策学部

准教授 杉谷 和哉



パネリスト

公共政策・社会学・Well-beingが専門。県政策分析アドバイザー等を歴任。元県職員。EBPMや政策分析・評価を理論と実務の両面から支援。

岩手県立大学 宮古短期大学部

准教授 和川 央

セミナーに関するお問合せ

主催



研究・地域連携室 TEL:019-694-3330

✉chiren@ml.iwate-pu.ac.jp 担当:長内

共催：岩手県

後援：岩手県市長会/岩手県町村会